

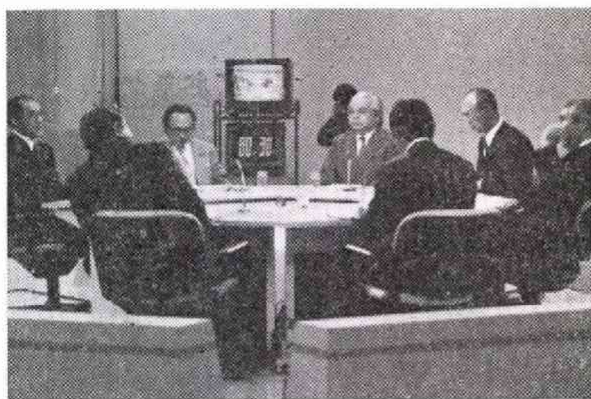
日本記者クラブ会報

岡村会員 (NHK) に記者クラブ賞

推薦委員会の新陣容も

理事会

第195号
1986年
5月10日発行
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
プレスセンタービル9F 墨100
◎ 社団法人 日本記者クラブ
電話 五〇三二七二二(代)



NHK「国会討論会」を司会中の岡村会員(中央)

四月二十五日の第一〇五回理事会は昭和六十年度の事業報告案、収支決算案、ならびに剰余金処分案を承

認した。理事会はまた、本年度の日本記者クラブ賞を日本放送協会の解説委員長岡村和夫会員に授与することを決めた。授賞は五月総会で行われ、賞状と副賞五十万円、特製万年筆が贈られる。

本年度は会員各位から十二候補の推薦が寄せられ、まず二月十二日の推薦委員会(村尾清一委員長代行)が有力三候補にしぼり、ついで四月八日の選考委員会(渡辺襄委員長)が慎重審議のすえ、新内規に従う無記名投票(二名連記も可)で岡村候補が三分の二以上の票を集め、他は過半数に達しなかったため、同候補ひとりを受賞者として理事会に答申していた。

受賞理由は十七年間にわたるNHKの「国会討論会」をはじめ「総理にきく」「党首にきく」のほか選挙特別番組、テレビ・シンポジウムでの卓越した司会ぶりにより、同放送の言論面を代表する一人となった

「存在と業績」(新内規)が評価された。昨年度は候補者にバラつきが多く、残念ながら該当者なしとなったため、内規を改め活性化がはかられ、今年度は激戦となっていた。栄冠に輝いた岡村会員は昭和五年生まれ、二十六年早大卒とともにNHK入社。五十九年から報道局解説委員長の要職にある。同会員の受賞の介は次号の会報で――。

新たに五味、緒方両委員

理事会はまたクラブ賞推薦委員会の新陣容を決めた。現在の第四期委員のうち内田健三委員長はクラブ賞候補として推薦されたため辞退、村

尾清一委員は二期四年をおえて辞意を表明したため、五味三勇(個人D、日本外交協会専務理事)、緒方彰(個人D、評論家)の両会員を新任、残る入江徳郎(個人D、評論家)、青木彰(個人D、筑波大教授)、村上孝止(日本新聞協会審査室長)、野崎茂(日本民間放送連盟研究所長)の四委員は重任。任期二年。

土曜夜のレストランは休み

既報「メンバー」と「ハウス」の両面からのクラブ基本路線見直し作業は順調に進み、五月十四日の会員資格委員会(渡辺恒雄委員長)で、会員資格の新内規、二十一日の施設運営委員会(原寿雄委員長)でスペース拡充をふくむクラブ機能強化の方針をまとめ、二十六日の総務委員会をへて、理事会にはかられる。引き続き開かれる総会席上、クラブ賞の贈賞式が行われ、そのあと井上ひさし氏の記念講演や会員懇親会が催される。ゲスト同伴も可。

なお土曜日夜のレストランは今年も夏場に休むが、その後も引き続き土曜夜だけ閉じることを、理事会は決めた。

とっておきの話

ジャングルの中の コミュニケーショングヤツプ

辻

豊



グ島の日本兵、また島民を襲撃」という記事が出た。そして、比政府も放って置けず、本格的な討伐隊を島に送るといふ報道である。

それを読んで、私もまた、放っては置けない気持ちになり、ある奇妙な出会いから、親しくしてくるようになっていた、故マ

グサイサイ国防長官（後、大統領。飛行機事故で死去）に会いに行つて、討伐隊派遣の延期と、私自身が島に渡つて「呼び出し工作」に当たりたい旨を申し入れた。長官は即座に承知してくれた。

そこで、空軍の小型連絡機を借りて、まず上空から島をつぶさに偵察した。（戦争中、私は旧海軍の飛行機乗りで、地上、特にジャングルの中などで動き回った経験は全くなく、何でも一応、空中からよく見ないと、納得できなかったからである）

次いで、比海軍の魚雷艇で、ルバング島のティリクに上陸。ここで、四人のポーター（荷運び）を雇つて、島の東南端のロオクに向かった。

翌朝（三月六日）、ロオクを出発。ジャングルの入口にある高台から、携帯

用の拡声器で、三人の残留兵に向かつて、日本語の呼びかけを始めた。（當時は、小野田少尉の他に、島田庄一伍長八十九年五月戦死、小塚金七一等兵八十七年十月戦死の二人がまだ生きていた）

やがて、ジャングルへ入つて行くと、ガイド役のポーターがおびえ始め、先頭に行くのは嫌だといひ出した。そこでやむなく、私が先頭に立ち、三四十メートルほど後から、フィリピン人たちが、怖る怖るついてくることになつてしまった。正直なところ、私も怖かった。しかし、私は、日本兵が日本人を撃つことは絶対にあり得ないと確信し、安心もしていた。

ただ、そのためには、私が正真正銘の日本人であることを、証明する必要があった。いろいろサル知恵をしぼつて、まずは日本の歌、それも軍歌を歌うことにした。ところが、海軍にいた私は、陸軍の軍歌をあまりよく知らない。更に一計を案じて、シャツを脱ぎ、上半身ハダカになった。顔と腕は、既に現地色に日焼けしていたが、胸や背中には、まだ白さが残っており、それを見れば、残留兵たちも、最近日本からやってきたばかりの日本人だと、認めてくれるだろうと（愚かにも）、期待

これは、私自身の「とっておきの話」などでは毛頭ない。ごく最近まで、こんな話、私は全く知らなかったのだから。

その話によると、今から三十四年前、ある「人」が、ある「ひとこと」を口にしていなければ、私は確実に殺されていたことになる。その「人」とは、ルバング島の小野田寛郎少尉。そして、その「ひとこと」とは、「待て」という、わずか2シラブルの命令形だったそうなの。

私は、小野田少尉たちを探すために、前後二回、ルバング島へ行った。最初は昭和二十七年三月、私一人で。二回目は三十四年五月、厚生省派遣の「救出調査団」に同行して。しかし、いづれも、完全な空振りに終わった。この話は、その一回目のときのことである。

「元日本兵、島民を襲撃」

昭和二十七年の一月、日比賠償交渉が始まり、故津島寿一氏を全権とする日本側代表団が、初めてマニラを訪れた。これに随行して、六社（毎日、東京、日経、共同、NHK、朝日）の特派員が、これまた戦後初めて、フィリピンへの入国を許可された。その中の一人が、たまたま私であった。この第一回の交渉は、二月初めに一応終わり、代表団は帰国。各社特派員も順次引き揚げて、ついに私一人が、マニラに残ってしまった。当時まだ、モンテンルバに残されていた日本人戦犯死刑囚の問題にぶつかって、思わずその救出にのめり込んでしまったからである。

そのころ、マニラの新聞に「ルバン



小野田寛郎・町枝夫妻と筆者（昭和58年12月19日）

したからである。
しかし、ジャングルの中で、先頭に立つと、びっしりとかみ合った枝や、つる草を、ボロ（山刀）で切り払いながら進まねばならない。切った小枝や、つる草は容赦なくはね返ってきて、たちまち、顔、手、胸は、ミミズ腫れだらけになってしまった。
こうして悪戦苦闘を続けながら、二十いくつかの山や谷を越えて、島を縦断、やっと西南端のルバングの町にた

どりついたときには、足腰ガタガタ、氣息エンエンの情けない姿であった。もちろん、ジャングルからは何の応答もなく、日本兵の痕跡は何一つ見つからず、全くの徒労であった。
以上が、昭和二十七年三月の、私のルバング島における呼びかけ工作のすべてであった。

小野田さんとの対面

ところが、二年半前の五十八年十二月、突然、朝日新聞の菊地育三記者から電話がかかってきた。
「ルバング島の小野田さんが、ぜひ一度会いたいといっています。が、会ってくれますか？」

菊地記者は、もと中南米特派員だったころ、ブラジル・マット・グロソンの小野田牧場を度々訪れ、小野田夫妻と親交を結ぶ仲になっていたが、折から十年ぶりに帰国した小野田さんから、「もし本当に、昔、朝日新聞に、辻という記者がいたのなら、ぜひ会わせてほしい」と、頼まれていたのだという。そこで、一夜、東京・芝公園の一角で会うことになった。
その夜、小野田さんは、夫人同

伴で、菊地記者に案内されて、やってきた。私にとっては、正に初対面である。丁寧に立ち上がって迎え、「初めまして」と、あいさつした。ところが小野田さんは、立ったまま、しばらくジッと私の顔を見つめていたが、急に、「いや、初めてではありません。やはり、あなただった。間違いない。やはり、本当に朝日の記者だったのですね。私は、ジャングルの中の隠れ場所から、百メートルほど前を通って行くあなたを、ジッと見守っていたのです」といい出した。

「敵ながら天晴れ」

「しかし、これは絶対にホンモノの朝日の記者などではない。朝日新聞の名をかたった、手の込んだ敵の謀略だ。この男、確かに日本語はうまいが、日本人ではないだろう。もし、日本人なら、裏切者であり、敵の回し者だと、三人とも確信したのです」

「そして、実は、射撃のうまい島田伍長がいきり立って、『隊長、射ちます』と狙いをつけ、今や引き金を引こうとしたとき、私は『待て』と、島田の銃を押さえました。こんな手の込んだ工作員を殺すと、また敵は必ず、しらみつぶ

しの掃討戦に出てくるにちがいないから、かえって損だと思っただけです。それに、あなたは無防備であることを示すために、勇敢にも、上半身ヘダカになって肉迫してきたでしょう。敵ながら、天晴れだと思いました。とにかく、あのとき、撃たなくて、本当によかった……」

私は、この思いがけない話を、ただ呆然として聞いていた。何たるお互いの勘ちがい。勇敢や天晴れどころか、こっちは何も知らなかったのだ。その夜、殺しかけた側と、殺されかけた側の対話は、つきることなく綿々と、深更まで続いた。そして、その後、いつの間にか、小野田さん夫妻と私は、ホンモノの兄弟（妹）のように親しい間柄になってしまったのである。

つじ ゆたか氏略歴 大正七年大連生まれ。九州大学東洋史科卒。昭和二十四年朝日新聞入社。朝鮮戦線、マニラ、アメリカ（出向）、ロンドン、世界ローピング各特派員。後、企画担当。五十一年朝日放送入社。国際・東京担当専務。六十年同社顧問。

米ナショナル・プレスクラブ訪問記

高野洋

(日本放送協会 報道局専門委員)

三月から四月にかけて、久しぶりにアメリカ旅行をした。いつものことながら、その広さを痛感させられた。塀に囲まれていないアメリカンハウスは、その広さのひとつの象徴である。ついでに訪ねたワシントンのナショナル・プレスクラブも、アメリカンハウスにはかならず広い。しかも、プレスビルの所有主である。この点で、日本記者クラブとハード面で比較するのは公平でない。しかし、いくつか参考になることがあると思うので、乱筆をかえりみず記してみよう。

ビルの玄関は昔のまま

ナショナル・プレスクラブ(NPC)ビルの玄関は、改装を終えた後もほとんど昔のままの風情を残して

いる。昔と違うのは、テレビ受像機が置いてあることだ。私が訪ねた日はたまたま、ニカラガ反乱分子への軍事援助の表決が下院であり、わずかの差で否決されたばかりのところだった。日本人記者団を含め取材陣が現場からプレスビルの事務所に帰ってきた。このテレビに見入っている人もいる。反乱分子指導者の記者会見がNPCで行われ、CNNによる現場中継の画面が写っていた。ビルの入口からサービスが始まっているわけだ。

ここから十三階にあるNPCの事務所を約束なしに訪ねてみたが、アシスタントが親切に案内してくれた。テレビで見た記者会見は、三部屋続きのニューズルームの一室でまだ続いていた。一室に五十人は入れるこの

のだが、日本記者クラブの人口密度で詰めればもっと入る。三部屋ぶちぬきで会見もできる。会見室にはエド・マロウ室という具合に、かつての大ジャーナリストの名前がつけられている。名前がつくと、不思議に無機質な感じがしない。

施設の中心は、ボールルームである。NPC名物の昼食つき会見が開かれる所だ。フルシチョフ、ドゴール、アデナウアー、岸、池田というような首脳の会見のようだが、頭の中をくるくるとかけめぐった。その頃のバルコニーは、正面の左手の一角にちよっぴり突き出す格好だった。今は、メインテーブル側を除く三方が全部バルコニーで、中央が放送用の調整室になっている。館内放送、中継放送両用だ。屋上には、放送衛星の受信アンテナもある。

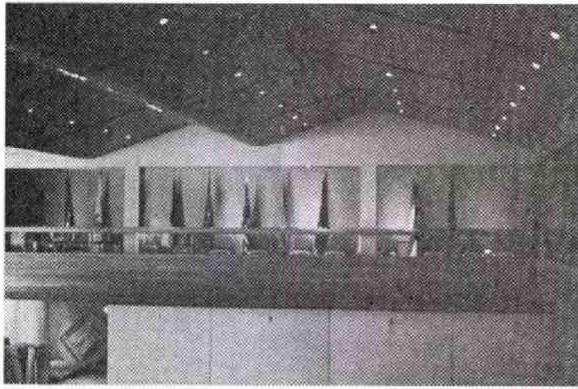
取材専用バルコニーを拡張

左右両側のバルコニーには、椅子が並べてある。これは取材用で、昼食会でも出入り自由な装置だ。もつともふだんは、出入りする取材者はボールルームの後ろに席を占めるが、満員の時にはバルコニーを利用

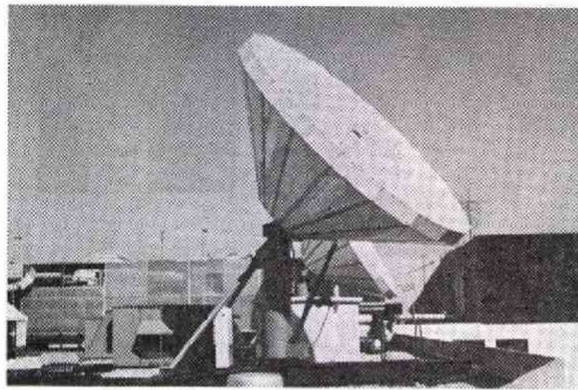
するそうだ。ボールルーム自体の収容能力は三百人、左右バルコニーは計六十人とのことだった。取材活動の便宜、立体的なテレビカメラの角度を考えると、日本記者クラブでもバルコニーはぜひ欲しいもののひとつであるように思う。

この他職業活動用の施設としては、当然のことながら図書室があり、ここにはいろいろな地方紙がとじられている。データベースの端末機も据えられている。別の場所ではAP、UPI、Press Relations Wireなどの通信社サービスが入っている。通信技術の進歩に応じて、それなりの施設を整えている。別の言いかたをする、アメリカのジャーナリストの必要を満たすような設備をしている。

NPCは十四丁目通りとF街の角に位置している。昔、十四丁目通りは国賓通りと呼ばれた。ダレス空港がなかったころ、ナショナル空港から国賓が、時にオープンカーで十四丁目通りを進み、ホワイトハウスに向かった。プレスビルの前には、ウィラーホテルがある。ここは今改造中だが、かつてホワイトハウスが置



ボールルームのバルコニー。取材用の椅子が60脚並ぶ



ビル屋上に備えられた放送衛星の受信アンテナ

かれたことがあるばかりか、日本初の外交使節新見豊前守の一行が、一八六〇年に、友好通商条約の批准書を携えて訪米したときに、滞在したところでもある。

余談であるが、副使の村垣淡路守はこうもり傘を、福沢諭吉はウエブスター辞書を求めた。しかし帰国後政情騒然としていたので、このこうもり傘は、邸の外ではさせなかったそう。当時日本の修好使節団には、軍の警備と海兵隊軍楽隊の演奏つきだった。ホテルの周辺は珍客が目見ようと、黒山の人だかりであった。この頃、アメリカの新聞記者

は取材に当たり絵入りで伝えたが、NPCはまだ誕生していなかった。

ホワイトハウスの見張り役

NPCの会長室からウィラードホテルの方に目をやると、財務省の向こう側に、ホワイトハウスの屋根が見える。文字通り、ホワイトハウス・ウォッチャーの位置にある。アン嬢は、ホワイトハウスより高い所にある点を、冗談まじりに強調していた。ペンは剣より強い、と言いたいのだろうか。

新装なったNPCでは、教科書的標語がめつたやたらに多いことに気

がついた。まず入口のエレベーターのわきに、ミズーリ大学ジャーナリズム学部長の言葉が刻まれている。公衆の信頼感のあるジャーナリズムの信条を説いたものだ。受付デスクの近くには、「アメリカ共和制とプレスは興亡をともしする」とのピュリツァーの言葉がある。これにつけるわけではない。ボールルームと隣り合わせのラウンジは憲法修正第一条を指す First Amendment Lounge と名付けられている。

まことに立派な職業意識と受け取るか、こういう標語は心の中にしまつて置くべきもので、ことさら壁にかけるのはアオクさいととるか、評価はいろいろあろう。

ワシントンには、歴史博物館趣味があり、なんでも形に残したいとの気風がNPCにも現れているように思えた。古き良きものを残そうという空気は、レーガン政権になってから強まったとも聞く。NPCにとつてのそれは、歴史的事件の鉛版、メーインラウンジの暖炉と柱時計だ。この時代物を見て昔を懐かしむ人は多からう。

NPCのもうひとつの側面は、個

人のクラブとしての性格だ。ジャーナリズムを職業とする個人がメンバーの大半を占めることは当然として、運動室やサウナ風呂まで備えているのには驚いた。カード室、たまつき場もある。仕事もさることながら、汗を流したり遊んだりするのも忘れていない。こういう側面が欠けていたならば、クラブとはいいがた。日本のクラブが、えてして会社のクラブであるのと対照的だ。個人を基礎にするか組織を基礎にするか社会によって違うが、欧米流は個人が基礎である。

NPCのラウンジは大きなものがひとつあるほか、二つ三つ小さなものがあり、少人数で懇談できるようになっていている。レストランも二つあり、その一つでは軽食がとれる。

全体としていたれりつくせり、という感じをうけた。ところが三月二十日(木)午後三時ごろ、メーインラウンジには人影はなく、カードルームと小ラウンジに数人たむろしていた程度の入りであった。みんな、外で仕事をしているのだろうか。それにしても人口はまばらで、やはりここにもアメリカの広さがあった。

ク ラ ブ ゲ ス ト

早坂 茂三 評論家



「田中のごころにワラジをぬいだのは昭和三十七年七月。昨年七月、二三年ぶりに一人だ

ち、かつては傲岸不遜が三揃いを着ていると言われたが、いまは髪もめつきり白くなり、近頃ではホトケの早坂と言われている」。田中角栄物語をひっさげて、全国講演行脚、多忙と聞く。この日のテーマも「オヤジと私」、元総理の生いたちから説きおこし、政治家田中角栄を語る。ゲストサイン帳には「不動心」と書いたが、マスメディアへの嫌悪、反発は抑えがたく、心理の揺れは隠せない。(四月二日(水) 懇談会 司会 三宅久之企画委員 出席 一〇五人)

佐治 敬三 大阪商工会議所会頭

稲山嘉寛経団連会長を皮切りに大槻文平日経連会長、五島昇日商會頭、石原俊経経同友会代表と続いた。「財界首脳そろい踏み」の最後に登場した佐治氏。

大商會頭のクラブ昼食會が初めてということもあつてか、あるいは何か思うところがあつてか、放棄自在



に直言とリップサービスを連発した。工業化時代から「美感遊創」の時代へ。モノからメンタルへ。人間的余裕の時代への移向の中



で、画一的でない上方の復権を語り、移行を促すためには生活のゆとりが必要だと言ふ。「そのためにはもっと給料上げないかん。サントリーだけは例外だが」となり、「生産性基準原理」というのは、(労組は)うまいことだまされたものやと思います。この一連の発言に日経連が真向から抗議したため、底冷え春闘を背景に話題が雪ダルマ式に大きくなったが、佐治氏はこのとき「経営者もこれから困ると思うんです。生産性は上がっても、利益が上がらないという時代がきますから」とも言っている。(四月三日(木) 昼食會 司会 藤村邦苗企画委員 出席 八三人)

金田 辰夫 日本国際問題研究所主任研究員・ソ連研究センター次長

「ゴルバチョフの経済改革の実像と行方」について、第27回党大会終了の時点で、分析し論評してもらつた。結論だけを紹介する。詳細は

講演記録版として発行予定。

「経済システムの抜本的改革は、現在やろうとしないし、彼の次のスケジュールにもないのではないか。現行の中央集権システムを、いかに活性化するか、いかにびほうするかにとどまるのではないか。彼の姿勢と具体的手法の間に距離がありすぎるので、何か読み落としてい

るのではないかと、危惧は残るが、テンタティブな結論としては、体制内改革でしかもかなり手あかのついた、新味のない政策をやろうとしているようだ」(四月四日(金) 研究会「ソ連 その実態と意図」(夏) 司会 木村明生企画委員 出席 六二人)

キャスパー・W・ワインバーガー米国防長官
二十分遅れで到着。ゲストを待つ間、會場のバーカウンターでは一杯三百円のカリフォルニアワインがよく売れた。が、その頭長官はホテルで、西独のデイスコ爆破事件の報告をうけていた。テーブルに着くと、司會者に「遅れた分をとりもどすため、早くたべよう」と。司會者が、出席者にも「早くたべよう」をお願いして、三十分後にはスピーチへ。

この中で、長官は「第二次大戦直後に米国が北方領土に進駐しなかったのは不覚だった」と述べ、北方領土にソ連が核能力のあるミサイルを配備していることを、公式に明らかにした。



アジア・太平洋地域のソ連軍の脅威に強い警戒心をあらわにした。日米軍事技術協力の重要性を強調し、締めくくりは「マッカーサーには先見の明があつた。

今日、われわれがアジアについて語っていることは、彼の発言にただ注釈をつけているようなものだ。長官は大戦中マ元帥の参謀部員だつた。(四月五日(土) 昼食會 司会 浅井泰範企画委員 通訳 富永正之 出席 二八四人)

呉学謙 中国外相

胡耀邦総書記の會見(58・11・26)の際にも同行してきているので、クラブ訪問は初めてではないが、ゲストスピーチとして初登場。

冒頭あいさつは通訳を入れて約十分、残り時間で十人の質問に答えた。クラブで行われた中国要人の會見では、もっともたくさん質問をうけたことになる。會見になれているということなのだろうが、それだけに発言は慎重。ただし靖國問題では態度鮮明。「戦争の被害者とそ

ク ラ ブ ゲ ス ト



れを起こしたものと違いをあいまいにした」「昨春秋以降、中曽根首相が公式参拝していないことに喜びを感じる。賢明なやり方だ。今後も適切に処理すると信じている」。

今秋ソウルで開催されるアジア競技大会への参加を示唆、皇室訪中問題には引き続き外交ルートで協議していく方針を明らかにした。(四月二日(月) 記者会見 司会 井上好道企画委員 通訳 程水華 出席 一四八人)



J・S・エルソグ メキシコ蔵相
次期大統領の有力候補の一人らしい。弁もたつしマスクもいい、何よりも陽性なものと、ユーモアのセンスがいい。金利低下で少しほっとしたところへ原油価格の急落。石油は同国の輸出の三分の二を占め、歳入の四

五%を占める。「メキシコはもともと深刻な影響をうける国になるう」。三つのプロジェクトを携え訪日、「政府、財界の援助をうけられるものと確信している」「私はオプティミストだ。こういう状況下の蔵相は、楽天的でなければやれない」。

資本逃避、債務不払いに關した質問も軽くクリア。「会見内容に誤りがあれば通訳のせい。スペイン語から英語への」と笑わせて幕(会見は英語・日本語で行われ、途中、蔵相は通訳の「早技」に何度も目を白黒させて感心してみせた)。(四月二三日(水) 記者会見 司会 水野堯企画委員 通訳 福島安紀子 出席 五七人)

J・オンピン フィリピン蔵相

アキノ新政権の蔵相として、実業界から入閣。会見にも同席したフェルナンデス中央銀行総裁と、四月初めに訪米、そして四月二十四日、東京へ。経済再建のためODA調達に走りまわる。財政も貧困問題も切迫しており、短期的な速効力のある援助を必要としていると言う。米



国からは従来のご二倍の五億ドル相当の援助が、訪問から二十日間余りで約束された。日本のODAへの期待も大きい。質問に答える形で、汚

職再発防止システムを、両国政府で検討する用意のあることも明らかにした。四十七歳のハーバード出の「インテリ蔵相」が通訳が入るのを忘れ、早口で熱弁をふるうのを、ドーンと構えた総裁がほほえみながら、アドバイスする場面も。

最後に司会者が総裁にも記念品を贈ると「私は座っていただけなのでいただく価値がない」。すると蔵相が「総裁にも一つ質問を」と。会場から「日本政府からはどの程度の額を期待しているのか」の声、総裁の答弁は「十分にお借りできればいい。そうすれば大蔵大臣が中央銀行へ泣きつきにこないですむでしょうから」。(四月二五日(金) 記者会見 司会 友田錫企画委員 通訳 福島安紀子 出席 七三人)

前川 春雄 前日本銀行総裁

四月七日「国際協調のための経済構造調整研究会」の座長として、報告書を中曽根首相に提出。内部では経調研と言っていたんですが、マスコミの力はすごく名前まで経調研に変えてしまった」と冗談を言いながら、昨年十月三十一日から五



か月間に十九回、官邸で午前八時から行われた研究会の様と議論の推移を紹介した。「総理も二回目を欠席しただけで大変熱心でした」

「五十七年という中期でみれば、輸出指向型の経済体質を変えていかなければならない」。クラブへは六回目の登場、記念署名は「恭慎」。(四月二八日(月) 昼食会 司会 鈴木幸夫企画委員 出席 八九名)

小倉 武一 政府税制調査会会長



四月二十五日、税制の抜本的改革について中間報告を提出。「税調の総会で審議してよろしい」という意味での報告

でない」ので、今後変わることもありうる」と前置きして、財源問題を中心に残された課題を列挙し、解説した。大型間接税を導入する際の摩擦と、資産所得も含め所得を正確に把握し所得税中心主義を貫く際の摩擦を考え、どちらがスムーズにやれるか、検討の余地があるとする。

「高額所得者の減税というのは明らかなので、その財源として大型間接税という話は分かりづらいのでは……」「(調査会が)国民に対する隠れみのならまずいが、国会や与党に対する隠れみのの役割はあるかもしれない。話の随所に、税調会長十二年の強腕ぶりと読みの深さを感じさせた。(四月三〇日(水) 昼食会副司会 広瀬一郎企画委員 出席 六四名)

米軍リビア爆撃

ワーキングプレス

「四月十四日米東部時間午後七時(リビア時間十五日午前二時)、米軍はリビアの軍事基地、テロリスト訓練基地に波状攻撃を行った」——同日午後七時二十二分(日本時間十五日午前九時二十二分)、スピークス副報道官が声明を読み上げ始めると、ホワイトハウス記者室に詰めかけた約百人の報道陣の間に一瞬どよめきが起こった。

折りから夜のニュース時間帯、CBS、ABC、NBCテレビなど三大ネットワークは直ちにホワイトハウスからの実況中継に切り替え、リビア攻撃のニュースはたちまち全米の茶の間、さらに世界を駆けめぐった。続いて午後九時からレーガン大統領の声明発表、同九時十七分からシュルツ国防長官とワインバーガー国防長官の共同記者会見が始まり、朝刊早版の締め切りが迫る米各紙はホワイトハウス詰めだけでなく、国務省、国防総省、議会担当記者を総動員し、ホワイトハウス周辺はあわただしい景況に包まれた。

もちろん、日本人特派員も翌日の夕刊早版締め切りギリギリという微妙な時間帯だけに、東京への送稿に追いまくられた。

リビアの首都トリポリ、第二の都市ベンガジの軍施設など五か所に対する攻撃には、英国の米軍基地から飛来したF111戦闘爆撃機や米第六艦隊の艦載機A6、A7など合わせて三十三機が直接戦闘に参加、テロ報復攻撃としては

テロへの対応策を転換

最大規模のものとなった。だが、それにもまして重要なのは、今回のリビア攻撃が単なるテロ基地への報復から、四月六日未明の西ベリンのデイスコ爆破に関与したといわれる、リビア政府の軍基地や司令部にまで攻撃を拡大した点とである。リビアが新たなテロを計画しているため「元栓をひねる」予防措置であると米側は説明したが、米国がテロ対応策を大きく転

換、積極攻勢に転じたことを示している。

「一定の状況下では我々は軍事行動をとる。この方針は確立されたものだ」——シュルツ長官は共同記者会見でキッパリと言いつつ隣のワインバーガー長官が軍事行動に対し消極的なのは対照的に、たえず強硬論を唱えたシュルツ路線が認知されたことを示している。もちろん、この裏には米

石川 弘 修

情報機関が傍受した、デイスコ爆破のリビアの交信記録が動かせぬ証拠となり、軍事行動にかり立てたという事実がある。

だが、今回のリビア攻撃に対し記者団からは幾つかの疑問が投げかけられた。第一は、米国はカダフィ大佐の命をも狙ったのではないかという点だ。米機は大佐がいるといわれた司令部を破壊したが、たえず寝所を変え大佐は近くのテントにいて難を免れた。第二に、フランス大使館などの民間施設にまで被害を与えたのは作戦ミスではないかという点と。次いで質問が集中したが、テ

ロ抑止効果があったかどうかという点だ。専門家の意見も分かれているが、「できたら他の方法をとったかった。だが、経済制裁も外交措置も西欧諸国の消極性に阻まれ効果をあげていない。残る道は軍事行動しかなかった」(ナン上院議員)というのが良識派を含めた大方の意見といえる。

その証拠にニューヨーク・タイムズ紙の世論調査は、八三年のグレナダ侵攻時を上回る六六%が大統領を支持していると伝えている。「何もしないというのは米国の政策ではない」——とテレビで訴えるレーガン大統領には、国際テロに対する執念ともいえる強い決意がみなぎっていた。

(いしかわ ひろのぶ 読売新聞社ワシントン特派員)



ホワイトハウスで緊急会見をする、シュルツ国防長官(右)とワインバーガー国防長官(4月14日)写真提供AFP=時事

国大協・入試改革

ワーキングプレス

「箱根の山を境に、東日本の三大学と西日本の四大学に分かれませう」——国大協が、四月三日記者会見し、来春から旧七帝大が二グループに分かれて二次試験を実施することを公表した。戦後初めて、東大と京大のかけもち受験が可能となった。

国立大の受験機会の複数化については、国大協の幹部が改革案をまとめては総会に提示、それが「慎重審議」を求める総会で否決される。複数化が検討されるようになった五十八年以降、このパターンが繰り返されてきた。

今年に入って、旧七帝大の分離案が急浮上した。教育担当記者による取材合戦が始まった。しかし、内容については不安材料が多く時間切れで、私も記者会見にのぞむことになった。「予想外」の大改革であった。

く。しかし、関東と関西が大きく暗礁に乗り上げた。

関東では、旧七帝大のグループ分けが公表された翌日、学長会議が開かれた。しかし、一橋大、東工大、お茶の水女子大など有力大学は東大と同じ日に試験をさせろと頑張る、有力大学がエゴを通すならうちも、各大学の思惑が絡んで結論は持ち越し。学内の会議になれば、「東大の落ち武者收容

急浮上の旧七帝大分離案

川邊克朗

しかも、京大と東大は、

戦前から学問でもお互いに張り合ってきた間柄。また、関

所では困る」「東大と同じグループに入れないなら、国大協を脱退せよ」といった強硬論が、教授たちから出ている。「大学の学長がこんなにせわしい思いをするのは、大学紛争以来」という非常事態に、調整役の学長も「最終的には、旧一期、二期になってもやむをえない」と悲観的のようだ。

一方、関西では、旧七帝大の京大が「反乱」のノロシをあげた。

四月十二日、京大教養部の教官代表が、西島学長に「反対声明」を突きつけた。続いて法学部が、来年度実施を延期してほしいと申し入れた。「エリートがみな東大に吸い上げられてしまう。これでは京大の地盤沈下になりかねない」というのが理由だった。

もともと京大では、旧七帝大の分離案には学内に激しい反対論があった。そして、現在の共通一次をめぐっても、東大は受験生の「足切り」に利用しているだけではないか、との不満がある。

「旧七帝大の分離案は動くことはない」——国大協は十七日、再度記者会見し、珍しく自信たっぷり。

また、文部省は「改革の直接の

引き金は臨教審からの答申。国大協が改革を急ぐのは当然」と、改革を迫る。

とはいえ、なぜ、旧七帝大が分かれるようになったのか。関係者が重い口を開いてくれた。「旧七帝大の分離など誰も本気で考えていなかった」。中には「学長がいづも勝手に決めて帰ってくる。特に理科系は研究費をもらうために文部省の言いなりだ」とまでなじる人も。改めて旧七帝大の学長の経歴をみると、医学部と工学部出身ばかり、文科系は誰もいなかった。

共通一次の廃止、六十四年度からの共通テストの導入——いずれもこの一年余りの間に政治で決着されている。そして、めまぐるしく変わる大学入試。今回もまた、「政治の風向き」を体した改革に終わるのか、国大協は五月七日の臨時総会でグループ分けを正式発表する。「四月二十四日記」

(かわべ かつろう 東京放送報道局社会部)

マネー商品ブーム

子供の教育費、住宅ローン、さらに税金に追いまくられているサラリーマン記者にはピンとこないが、世の中にはおカネがあまっているらしい。たとえば生命保険会社が売り出している、一時払い養老保険は八・一四％という高利回りがうけて、広告もしないのに契約がどんどん増えているという。生命保険会社の資産運用担当者は「株式や債券にいくら投資してもおカネが次から次へと湧いてくる」とあきれ顔である。

日本銀行の調べによると五十九年末の個人金融資産は五百二十六兆円。GNP（国民総生産）の一・七倍にも達している。五十五年から五十九年までの年平均伸び率一〇・六％が今後も続けば、一人当たり個人金融資産は六十一年末には米国とほぼ肩を並べるといえる。個人は豊かになっているのである。

しかも歴史的な低金利、個人のおカネが預貯金から離れて、より高利回りの期待できる金融商品に向かうのは当然の流れといえる。野村総合研究所の金融専門家に対

ワーキングプレス

するアンケート調査でも、今後十年間に個人金融資産の中心は預金、郵便貯金のウェイトが低下する一方で投資信託、公社債、保険、信託などの比重は増大するとの見通しになっている。

一昔前までは証券会社といえば株式売買中心のイメージが強く、大衆にはやや近寄り難い存在だった。しかし、一か月据え置けば出し入れ自由で高利回りの中期国債

増加する個人金融資産

宇都宮 年夫

ファンドが普及するとともに、証券会社の店舗に主婦やOLも出入りするようになった。「中国ファンドで金利選好に目ざめ、それから債券や株式にまで手を出すようになった投資家も多い」と証券会社の役員氏。

証券会社も銀行も個人のおカネをどれだけ取り込むかによって経営に優劣がつくから、あの手この手の商品を考え出してしのぎを削

る。「ビッグ」、「ヒット」、「ワイド」、「ハイジャンプ」、「ハイパックス」——いずれも個人向け金融商品のニックネームだが、専門家でもすぐにはその内容を説明するのは困難なほどだ。

これらの新商品はたとえば証券会社なら営業企画部が社内でのアイデアを吸い上げたりしながら開発、監督官庁である大蔵省の認可を受け、発売にこぎつける。新商品への期待からマスコミ

もちろん相手からの売り込みを待っているだけでは、画期的な新商品のニュースは取れない。大蔵省との折衝過程などで、そのニュースが漏れることもあるからだ。画期的な商品ほど、銀行、証券の垣根問題なども微妙にからんでくるだけに、早く報道し過ぎてその商品の認可が遅れたりしてはいけないと、取材する側としては神経をすり減らす。新商品の取材を通

して、金融革命の最先端を垣間見たように感じるのはいさな時だ。横ならび意識の強いわが国では一社が新商品を発売すると、何か月か遅れて同業他社も追随するのが一般的。同工異曲の新商品を、ニュースとして売り込んでくる社もあるので要注意だ。それに低金利下で、最近発売される商品には値上がり益や為替益にウェイトを置いたものも多くなっている。専門家の運用とはいえ期待通りの利回りにならない危険性も、報道する側としては指摘しておかねばならない。金融商品ブームに記者も浮かれてばかりはいられない。

（うつつのみや としお 日本経済新聞社証券部 兼金融部）



個人客でにぎわう証券会社の窓口

スタジオ訪問

情報センター

ザ・スケッチ

大反響

電話アンケート

「松山地方が悪天候の場合、大阪空港へ向かうことがありますので、あらかじめご了承ください」

カウンターの言葉に、カゼ気味の頭が一層重くなる。二週間後に迫った東京サミットのため、厳しくなったセキュリティチェックの長い列に並び、四月十八日一番機で雨の松山へ。

南海放送は松山城の北側、市街地から少し離れた静かな住宅地にある。取材番組は、ローカルニュース「情報センターザ・スケッチ」(月)金 午後四時から五五分)。

「今日(金曜日)は、週末特集」などで、平日とは少し趣を変えています」と篠原修報道制作局長。参考までに、前日放送分のテープを見せてもらった。

オープニングでは番組名を説明するよう() Sports Kitchen Education Travel

Culture Health の文字が流れ、頭文字を並べて「SKETCH」となる。宇

都宮基師、永江孝子両キャスターのあいさつの後、三月末に愛媛県でもサービスが始まった、キャブテンの話題に入る。これにからめての電話アンケート(あなたの欲しい情報は?)。次に熊本で開催の「グリーンピクニック」をミス・グリーンピクニック二人を交えて紹介。ネット局の映像を使った「近県ホットライン」。二十

年前の今日をフィルムで見せる「きょうの暦」。視聴者からのビデオを紹介する「ふるさと情報」。愛媛に関する問題に電話で答えてもらう「クイズ・だ・えひめ」。発明週間にちなみ、愛媛で商品化されたアイデア商品と、その発明者の話題。松山で初開催のデビスカップ東洋ゾーン。コンピュータを使った冒頭の電話アンケートの結果報告。共同通信の「カインズ」からの経済情報と続く。

こうした情報への合い間に一般のローカルニュースが入り、合計十五項目ほどのニュースが矢継ぎ早に流される。伊予のノンビリしたイメージとは、かけ離れたテンポとスピードだ。

番組スタートは五十九年四月。その年の新年祝賀会で門田圭三社長があいさす。情報化社会での情報の収集、蓄積、

分析、検索能力と、すみやかな送り出しの重要性を説いた。これをきっかけに、新しい情報番組の開発、情報センターの設立、ニュース検索システムの開発が、それぞれ具体化し、四月九日第一回の「ザ・スケッチ」がオン・エアされた。

「まず考えたのは視聴者が見てトクをする、ということでした」。産婆役を務めた森蔵報道制作第二部長は、三つのポイントを説明する。「第一に教養、第二に早い情報、第三は実際にトクをするオマケ的なもの。この三つを中心に、より多くの情報提供を考えて、今のようスタイルになりました」。さらに、番組には目玉となるコーナーが必要だ。スタート時に作ったのが「走れ! 買うタロ

ー」。キャスターが電話で商店主にかけて、特定の商品を値下げしてもらうのだが、これがうけた。時には小さな肉屋に三〇〇人も人が押しかけた。現在の目玉は前記の「電話アンケート」。何の予告もなく始めたため、何本かかってくるか不安だったが、始めてみるとスタジオの六本の電話が一斉に鳴りはじめたそう。スタッフがホッとしたところで、今

度は電話局から連絡が入った。交換機がパンク寸前だという。思わぬ反響に「内心ニコニコしながら頭を下げましたよ」。以来申し込み電話番号の末尾制限を行っている。

この日の「週末特集」はキャブテン。前日でも扱ったが、週末をスタジオに設置、N.T.T.の社員の説明もまじえてたっぷり紹介。通常の放送では副調整室を使わず、主調整室で直接、スタジオのカメラをリモートコントロールであやつり、VTRをセットしながら送り出しも行っている。が、この日の「特集」は同じスタジオながら別セットのため、外からの中継と同じ扱い。この十数分間だけ副調整室が使われた。

この他、シーズンを終えたスキーマの保管方法や、園芸など趣味のコーナーとイベント情報も交え、前日に比べて全体的にゆったりとした「週末感覚」に仕上がった。

番組スタートから二年、社の看板番組としてゴールデンタイムへの移行も検討中だという。

(河野 聡)



取材からビデオ編集までこなすマルチ・キャスター宇都宮さん(右)と永江さん



▼共同通信を退社し、社員三人で始めた広告業も十五年。この間、デザイン、出版と仕事を広げ、昨年六月には中国室

DL「文作シリーズ」を対象機種に、日中ワープロソフト「文華」を開発。中国文原稿を日本語、拼音(ローマ字表記)、電碼(電報符号)のいずれかで入力すれば、美しい簡体字の中国文が印字されるソフトを販売中。

〒105 東京都港区虎の門一―十一―七
TEL 五〇三―九三七八

(小林 春雄)

▼アラブ系の記者に会ったら「国際テロ

の本を書くなら、アメリカ、イスラエルの情報でなく、アラブ・ソースにしてくれ」と言われたが、残念ながら、今回はアラブ記者の希望にそえなかった。題して「国際テロ」は、四月二十三日に発売(自由国民社)となった。リビア中心の国際テロ組織の脈、金脈の、一部は記録できたと思う。「テロというのは、最小の確実性のつかめない分野であり、最大の注意を払うべき種のものだ」とさ

れている。

(黒木寿時)

▼事件、戦争、航空、医事…と、何でも記者が極まって、このところニューメディアに取り組み、目下、ビデオテックスと宇宙通信の開発に追いまくられていきます。モノの資源はゼロでもヒトの資源では大国となった日本が当然、先行して迎える高度情報化社会の基礎作業ですが、種々のハードに追いつき使いこなす、高度人間化の必要をひしひしと感ずる近頃です。(サンケイ新聞 野田 衛)

プロフィール

四月の例会は二十六日、参加二十二二人、総対局数四十七局。

なぜか星が片寄って全勝者と全敗者がそれぞれ四人ずつという結果になった。堀川五段、浅野四段、白井三段、村上四段が勝ち放したが、特に白井三段は昇段直後にもかかわらずの連勝で、早くも四段をねらうに絶好のスタートを切った。そのほか石崎六段、大日向四段、大留三段、内川二段、小野一級がいずれも一敗で今月の成績優秀者は計九人となった。また、小野一級は最近の通算成績が十二勝五敗・七〇六の勝率で念願の初段に進んだ。

次回五月の例会は二十四日(土)午後一時から、クラブ会議室で。

四月一日付入会の個人D会員、法人・個人賛助会員、特別賛助会員の方がたです



「スポーツ・エイドにも協力を」と訴えるユニセフ
親善大使の黒柳徹子さん（4月3日 会見室）

1日▽第四回向田邦子賞（脚本賞）選
考会議—早坂暁「花へんろ」に決定
（東京ニュース 田中耕蔵会員）▽
入社式（時事 村石富行会員） 2日
▽米国ニューメディア事情視察説明会
（静岡放送 深沢渉会員） 3日▽「ス
ポーツ・エイド」記者会見—昨年行わ
れたアフリカ飢饉救済コンサート「ラ
イブ・エイド」のスポーツ版で、五月
十七日から二十五日までニューヨーク
の国連本部を中心に、全世界の主要都
市で開催される（国連広報センター
中村恭一会員） 9日▽日経政治部O
B会（日経 新井明会員）▽スベン
ヤル番組「神々の峰 アンデス大自然
行」記者発表（テレビ朝日 田中等会
員）▽放送番組向上委員会（矢野輝

雄会員） 10日▽銀杏クラブ—帝国大
学新聞OBの集い（殿木圭一会員）
▽全国新聞東京支社長会幹事会（山陽
山本雅生会員） 11日▽中国新聞工
作者代表団歓迎レセプション（協会
阪田秀会員）▽15社編集局長会（協
会 宝子山幸充会員） 12日▽防衛問
題を考える会（ラジオ日本 南丘喜八
郎会員） 14日▽テレビ大賞審査委員
会・懇親会—大賞「イエスの方舟」（東
京ニュース 田中耕蔵会員） 15日▽
新聞協会報座談会「スポーツ紙の現在」
報知、スポニチ、日刊スポーツ、サン
ケイ、東京中日、デーリーの各スポー
ツ紙編集局長▽文字放送画面制作
研究会（大塚喬重会員） 16日▽日経
整理部OB会（日経 船山庄一会員）

18日▽座談会「人口問題と地域
づくり」四柳修総合研究開発機
構理事、大内秀明東北大学教授ほ
か（河北 内田二郎会員） 19
日▽「日本の貿易黒字を世界の
ためにどう生かすか」記者発表
—ラル・ジャヤワルデナ、スジ
ヤトモコ、大来佐武郎の各氏
（国連大学 河合伸会員）▽
国際衛星共同利用機構理事會
（梅本昭会員） 22日▽全ソ外
国貿易広告公団セミナー「ソ

年	月	クラブ 利用	施設 回数
60.	4		126
	5		135
	6		121
	7		134
	8		75
	9		101
	10		133
	11		121
	12		117
	61.	1	
2			107
3			121

連における広告事
情」デオミードフ
同公団副総裁（日
経 赤須通明会
員）▽核都市問
題研究会（茂野豊
次会員）▽東京
新聞「良書の本棚」
総会（中日 今泉正夫会員）▽日工産
業人クラブ 講師 式場英NTT企業
通信システム事業部長（日本工業 山
崎定世会員） 23日▽在日外国報道関
係者招待レセプション（協会 阪田秀
会員）▽MAIN（時事通信金融証券
情報システム）披露パーティー（時事
村上政敏会員）▽明日を見つめる
日中懇話会—講師 宮崎勇大和証券経
済研究所理事長（内田健三会員） 25日
▽日本外交協会研究会—「衆参両院選
挙と今後の政局」石川真澄朝日新聞編
集委員（池浦泰宏会員）

【会員がクラブ施設を利用して行った主な会合
です。四月の総回数は一三一回でした。】

会合紹介

土田会員優勝—ゴルフの会

桜にはもう少しという四月四日（金）、
名門東京ゴルフ倶楽部で、第四十五回ゴ
ルフ会が催された。参加者三三人、内藤
会員（朝日）のお世話で実現した。

名にし負うバンカーの名所、正確なシ
ョットと技術を要求されるコースで、ス
コアをまとめるには難しいコースだっ
た。しかし終始快調に飛ばした土田節郎
会員（D）が、NET69の好スコアで優
勝した。二位以下は次のとおり。

二位・吉川真澄（プレスセンター）NE
T73、三位・池浦泰宏（D）75、四位・
小藤哲郎（D）77、五位・内藤頼誼（朝
日）78、BB・太田博夫（D）、BM・
坂田二郎（D）、大波賞・堀義明（D）、
水平賞・土田、望月豊（アラスカ）。

ほかに特別賞としてO会員に大たたき
賞、A会員にとまり木賞が贈られた。
最長老広岡知男会員「今回は冬場のト
レーニング不足で不本位なスコアだっ
た。長老という指名には大いに抵抗を感
じるので、次回は皆さんに若さを誇れる
スコアをお目につけたい」

坂田二郎会員「この会だけにあるBM
賞を頂戴し、大変うれしい。人誰でも年
を重ね、またスコアも多くなるが、これ
を賞する思いやりに感謝している」

第133回企画委員会(4・8 大会議室)

国・公賓ゲストに贈る記念品について意見を交換、従来通り「蒔絵の万年筆」を追加発注することにした。

出席 藤村委員長。浅井、山岸、広瀬、有賀、石丸、高野、水野、白井、武藤、河野、中川、三宅の各委員。

昭和61年度日本記者クラブ賞選考委員会(4・8 宴会場)

村尾清一推薦委員会委員長代行の報告をうけた後、候補十二件について慎重審議した結果、岡村和夫氏(NHK解説委員長)を受賞者として、理事会へ答申することを決定した。

出席 渡辺(襄)委員長。細谷、原、吉原、島、山田、泉、新井、中江、常盤の各委員。

第70回会報委員会(4・15 8階会議室)

委員長が林利隆新委員(新聞協会)を紹介し、五月号の編集について協議した。出席 深川委員長。林、井出、安延の各委員。

第104回会員資格委員会(4・15 小会議室)

五月一日付の入退会を審議し、理事会へ答申した。委員長から「会員の資格と適正規模」についての基本方針案が示さ

れ、これを了承した。

出席 渡辺委員長。中川、小池、加藤、樋口、玉井、有泉、埜田の各委員。

第26回施設運営委員会(4・21 8階会議室)

クラブ機能の充実と施設拡充にのぞむための、諸データの整備を事務局にもとめた。

出席 原委員長。天野、佐川、河崎、和田、宮地、山崎、黒木の各委員。

第13回監事会(4・21 大会議室)

昭和六十年四月一日から六十一年三月三十一日までの会計監査を行い、決算案を承認した。

出席 白鳥、土居、溝渕の各監事。

第36回総務委員会(4・25 8階会議室)

六十年事業報告案・収支決算案を承認し、剰余金処分案を作成した。また、六月から昼食会費を洋食Ⅱ二、八〇〇円(現行二、五〇〇円)和食Ⅱ二、三〇〇円(現行二、〇〇〇円)に改定することを承認した。

出席 渡辺(襄)委員長。渡辺(恒)、細谷、原、東の各委員。新井理事長、常盤副理事長。

第105回理事会(4・25 宴会場)

一、六十年事業報告案と同収支決算案

を承認し、剰余金一五、六九九、五八三円をクラブスペース拡大にともなう借室料に充当するため、六十一年度予算の予備費へくり入れる処分案を決定し、第二八回総会へはかることにした。一、六十一年度日本記者クラブ賞を、同賞選考委員会答申どおり、岡村和夫氏

◇「会員アンケート」へのお答え

施設運営委員会(原寿雄委員長)は、「会員アンケート」で寄せられた具体的な要望・意見について検討し、次のような結論を得ました。

(施設の拡充) 八階へのクラブスペース拡張計画の中で、職業的機能、ケイタリング機能両面の充実をはかっていきます。簡単な調べものをしたり、原稿を書く場所の確保も課題として検討します。

(貸室利用基準の緩和) 貸室の希望が非常に多いのですが、クラブで行うのにふさわしい会合にお使いいただきたいと思えます。「クラブ利用のお願い」に示されたルールに従い、会員本人の出席がない会合等には、今後とも貸し出しは困難です。

(非会員の食堂利用防止) 卓上のナンバースタンドに工夫を加え、会員証をはさめるようにします。テーブルに

(NHK解説委員長)に贈ることを決定した。

一、土曜の夜のレストラン営業を、九月から中止することを決定した。

出席 新井理事長、常盤副理事長。理事 渡辺(襄)、渡辺(恒)、細谷、原、米、池上、安藤、森、東、藤村、高瀬、深川、中根。

ついたら必ず、そこへ会員証を置いてもらうようにしますので、ご協力ください。

(ラウンジでの食事サービス) ソファ席ではカレーなどの軽食サービスはしないようにします。軽食はスナックテーブル、バーカウンターでおとりください。

(チケットサイン制) 伝票計算、売掛管理、請求・領収事務にかかる労力とコストからして、今後とも現金またはクレジットカードでの精算をお願いいたします。

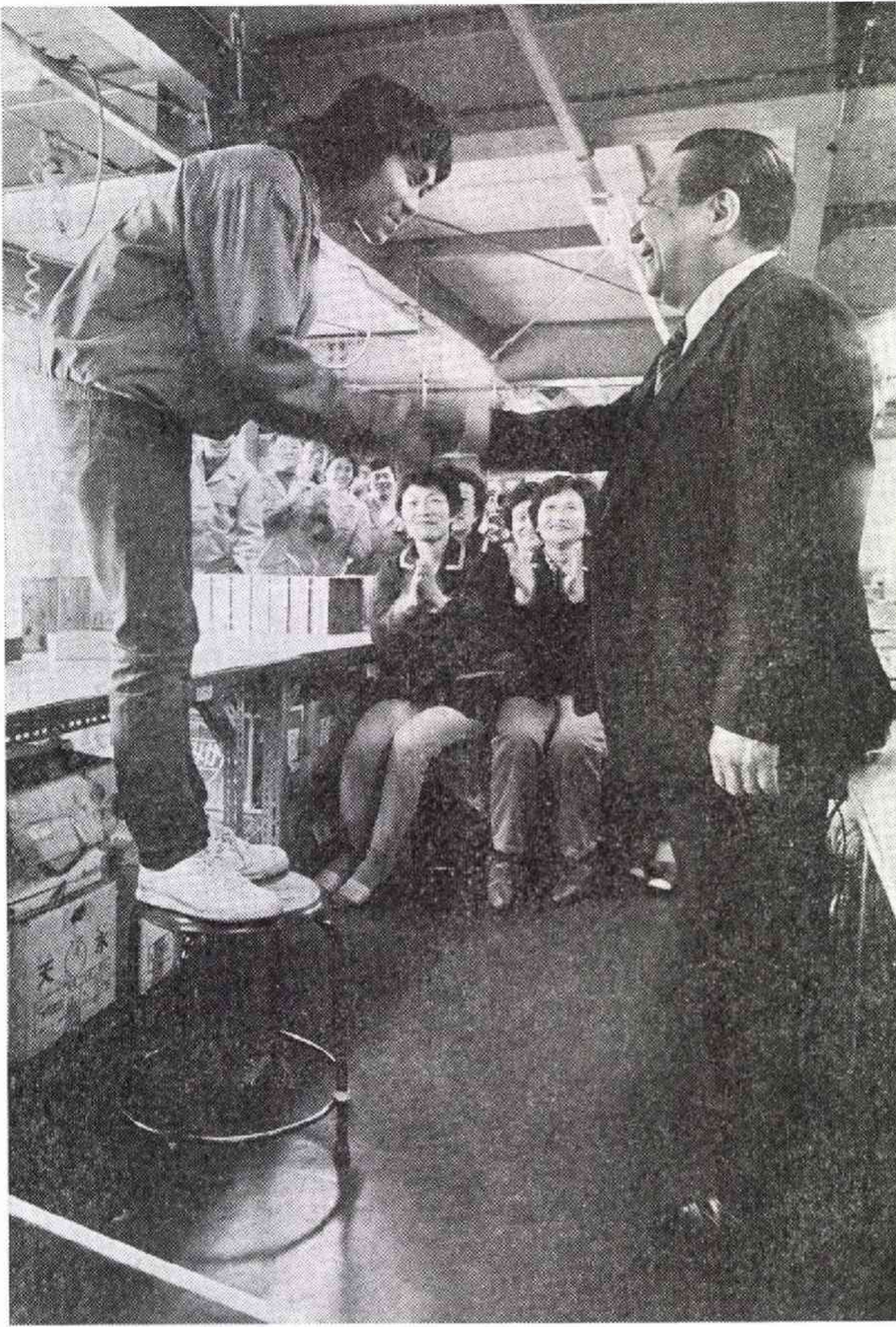
(ラストオーダー、閉室時間の延長) 昼食会、会見などの職業的活動に重点を置くクラブの性格とサービス体制の両面からみて、いまのところ現状が妥当と考えています。

※なお、BGMの音量などすぐ手のつけられるものは事務局へ指示し、「アラスカ」関係の問題についても、事務局を通じ改善をもとめています。

写真部

ファット君の旅立ち

写真 中井 征 勝
(朝日新聞社写真部)



ベトナム難民のファット少年は、四月一日、東京の小工場に入社した。

印象の強い写真だが、なぜ椅子に乗っているのかわからない。社長さんに電話したら「新聞の方が振り付けたので、他からもきかれますが、返事のしようがないんですよ」と笑っていた。

握手する二人と工員さんのリアクションを一つの構図にまとめるための演出で、報道写真というより、記念写真のような表現手法である。一種のヤラセだが、作者の意図を表現するための演出として、それなりに効果をあげている。

世の中に主観の入らない事実などあり得ないし、言葉や文字と同じように「映像」も主観的であり、どんな嘘もつくことができる。映像にウソはないという神話は放棄した方がよい。

往々、演出は映像の力を弱くするが、この写真は不思議な現実感にあふれている。「中、高卒の若い人が大企業志向なので」と四人の難民少年の採用にふみ切った小工場主、祖国の庇護もなく、一人ぼっちの人生を開拓しようとするファット少年、厳しい現実社会を生き抜こうとする、人間のたくましさ、これを記念写真以上のものになっている。

(牛山純一)

「新聞文章、放送ことば、日本語」で記念講演

五月二十六日(月)午後四時半から、作家井上ひさし氏を講師に迎え、総会記念講演会を行います。テーマは「新聞文章、放送ことば、日本語」です。記念講演に続き午後五時三十分から会員懇親会が行われ、席上、本年度クラブ賞受賞者・岡村和夫氏(NHK解説委員長)をご紹介します。ご予約おき願います。

六月から昼食会費を改定します

六月から昼食会の会費を左記のように改定させていただきます。(カッコ内は現行会費)

- 洋食 二、八〇〇円(二、五〇〇円)
- 和食 二、三〇〇円(二、〇〇〇円)

現在の昼食会費はクラブが帝国ホテルからプレスセンターへ移転の際決められたもので、十年ぶりの改定となります。

七月十八日に第46回ゴルフ会を開催

- 第46回ゴルフ会を次のように開催します。
- 日時 七月十八日(金)午前九時集合
- コース 相模カンツリー倶楽部
- 会費 五千元(パーティー・賞品代)

申し込み締め切り 六月十四日(土)
締め切り日以後のキャンセルは、五千元を申し受けることとなりますので、ご注意ください。
お申し込みは事務局へ。参加者には追って詳細をご案内いたします。

案内いたします。

クラブ行事の最新情報は

〇三一五〇三一三七六四で

昼食会、記者会見など、最新のクラブ行事をお知らせする「会合案内」電話があります。日時の変更や急に決まった記者会見など行事予定がすべて分かるようになっていきます。電話番号は、〇三一五〇三一三七六四です。ご活用ください。

クラブ訪問者

3月28日/劉文玉新華社東京分社社長 姚力特派員
張可喜特派員 4月17日/尾花珠樹日本ユネスコ協会連盟事務局長

会員の著書(ご惠贈いただきました)

キッソングジャーとサダトとソ連 川本 和孝
戦後昭和史うらおもて 入江 徳郎
国際テロ 黒木壽時訳
ドイツ人 浦田誠親訳

展覧会の招待券 平野光男会員(西武百貨店)から「海をわたる絵本原画展」「国画会60年工芸の展望」「柴宝斎秘蔵美術品展」、朝日新聞社から「セオドア・ウオレス展」、毎日新聞社から「川上澄生展」の招待券をご惠贈いただきました。お礼申しあげます。

五月一日現在の会員状況 法人会員 一四六社 基本会員 六三三人 個人会員 一、三〇五人 法人・個人賛助会員 七七社 二二七人 特別賛助会員 七七人 名誉会員 一六人 計 二二三社 二、二五八人

計報 丸山崇会員(個人D)が4月28日心不全のため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

五月の行事(6日現在)

- 13日(火) 午後1時~2時 モシエ・アレンス イスラエル無任所相記者会見
- 〃 午後2時30分~3時30分 リー・シエンロン シンガポール通産相代行者会見
- 16日(金) 午後4時~5時 ロバート・ホーク オーストラリア首相記者会見
- 19日(月) 正午~午後2時 藤岡真佐夫アジア開発銀行総裁昼食会
- 26日(月) 午後4時30分~5時30分 総会記念講演会 テーマ「新聞文章・放送ことば・日本語」講師 井上ひさし氏 午後5時30分~午後7時30分 会員懇親会
- 27日(火) 午後2時~4時 日韓の文化を語る会 | 井上靖、張炳恵、楊覚勇の三氏を囲んで
- 28日(水) 午後3時30分~4時30分 サモラ・モイーゼス・マシエル モザンビーク大統領記者会見

会報委員長 深川 誠

委員 林 利隆 井出新六 斎藤吉史 安延久夫
連絡 長谷川 河野(事務局) 五〇三一二七二一